実践事例　小学校１年

道徳の時間で活用する
～親切、思いやり～

光市立光井小学校　川部 みゆき

1　本場面におけるポイント

- 挿絵や劇化によって、場面における登場人物の心情を考えやすくする。
- 親切にした側と、された側の両者の心情を吹き出しに書いたり、発言したりするこ とによって、親切にした側もされた側も心が温かくなることに気付くことができるようにする。
- 学習の終末で、自分にできる親切について考えたことを「わたしたちの道徳」に書く活動を通して、生活の中で、身近な人に親切にしていこうとする心情を養う。

2　授業の実際

１　主題名　あたたかい心で親切に　「資料名　はしのうえのおおかみ」

２　ねらい

くまに親切にしてもらったおおかみの心の変容を話し合ったり、親切にしたおおかみと親切にされた動物たちの心情を考えたりする活動を通して、身近な人に親切にしようとする心情を養う。

３　展開

（１）導入　ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。

教師：親切ってどんなことでしょう。
Ａ児：人を大切にすること。
Ｂ児：人に優しくすること。
Ｃ児：うれしいこと。

（２）展開　「はしのうえのおおかみ」を読んで、登場人物の心情を考える。

教師：「もどれ、もどれ。」と、みんなを追い返すとき、おおかみはどんなことを思っているのでしょう。

Ａ児：楽しいなあ。
Ｂ児：いじわるって楽しいな。
Ｃ児：面白いなあ。
Ｄ児：もっとやってやろう。誰か来ないかな。
教師：おおかみは楽しそうですね。追い返された他の動物たちは、どんなことを思っているでしょう。
Ａ児：こわいなあ。
Ｂ児：橋を通りたいのに、通れない。どうしたらいいんだろう。困ったなあ。
教師：くまの後ろ姿を見ながら、おおかみはどんなことを思っていたでしょう。
Ａ児：えっ？何？何をされたの？でも、なんだかいい気持ち。

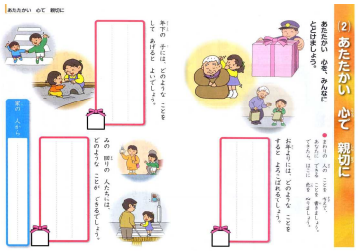
Ｂ児：おれって、いじわるだったんだ。もうやめよう。
Ｃ児：ほかのみんなにも、やってあげようかな。
教師：うさぎを抱き上げて、橋を渡らせてあげたおおかみは、どんなことを思ったでしょう。
Ａ児：気持ちいいな。
Ｂ児：もっと優しくしよう。
Ｃ児：優しくするって、楽しいな。
教師：橋を渡らせてもらったうさぎはどう思ったでしょう。
Ａ児：おおかみさん、優しいな。ありがとう。
Ｂ児：うれしいな。
教師：前に出て、おおかみさんとうさぎさんになって、言ってみましょう。
（役割演技）

□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

挿絵やお面を活用することで、心情を考えやすくしたり役割演技しやすくしたりする。

（３）終末　自分にできる「親切」について考え、これからの自分の生活に生かす。

教師：今日の学習を終えて、自分にできる親切を書きましょう。
Ａ児：親切は、した側もされた側もいい気持ちになる。
Ｂ児：これから、友達に優しくする。
Ｃ児：困っている人がいたら、助けてあげる。



□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「わたしたちの道徳」（１・２年P66・67）に記入し、これから自分にできる親切について考える場を設ける。 家庭に持ち帰り、「家の人から」の欄に記入してもらうなど、「親切」について家族で話し合うように促す。

３　実践を振り返って

今回は主人公のおおかみの親切な行為とそれを受けたうさぎの心情を話し合い、その場面を役割演技させた。おおかみの価値ある行為が、相手を喜ばせたと同時に、自分自身もうれしい気持ちになったということから、「親切」は、した側もされた側も温かい気持ちになる価値のある行為であることに触れることができた。

挿絵や劇化によって、場面ごとでの登場人物の心情を想像することはできていたように思う。また、「わたしたちの道徳」への記入によって、自分の事として捉え、これから自分にできる親切について考えることができた。

今後、日々の生活の中でも親切な行為が見られたときは、しっかり価値付けていきたい。